

2010年2月

広島市現代美術館
特別展

ウィリアム・ケントリッジ
—歩きながら歴史を考える
そしてドローイングは動き始めた……

William Kentridge—What We See & What We Know
Thinking About History While Walking, and Thus the Drawings Began to Move...

[2010年3月13日(土)-5月9日(日)]



広島市現代美術館

担当：神谷、小橋、角

広報担当：後藤、鈴木

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1

TEL082-264-1121(代表、掲載用)

082-264-1146(学芸直通)

FAX082-264-1198

<http://www.hcmca.cf.city.hiroshima.jp/>

hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp

ウィリアム・ケントリッジ—歩きながら歴史を考える

そしてドローイングは動き始めた……

ウィリアム・ケントリッジ（1955年南アフリカ共和国生まれ、同国ヨハネスブルグ在住）は、ヨハネスブルグの大学で政治学を学んだあと、パリのエコール・ジャック・ルコックにおいて演劇を学び、その後、1990年頃から、木炭とパステルを使って描いた素描を35ミリ映画用撮影カメラでコマ撮りした手描きアニメーション・フィルムを制作・発表しました。

その作品は、出身地である南アフリカの歴史と社会状況を色濃く反映しており、とりわけ自国のアパルトヘイトの歴史を痛みと共に語る初期作品《ソーホー・エクスタインの連作》は、脱西欧中心主義を訴えるポストコロニアル批評と共鳴する美術的実践として、1995年のヨハネスブルグ・ビエンナーレや、1997年のドクメンタ10を契機に世界中から大きな注目を集め、現在、世界的に活躍しているアーティストの一人として挙げられます。本展では、南アフリカの歴史を扱った初期に制作したアニメーション作品のうち、代表作ともなっている《ソーホー・エクスタインの連作》から、ショスタコーヴィチのオペラ『鼻』を題材にした最新作まで、フィルム・インスタレーション4点を含む、18点の映像作品と、約90点の素描、版画によって、その活動の全貌を紹介。国内では初めての個展となります。

また会期中は、作家が来日し、映像とともに行うパフォーマンス作品《I am not me, the horse is not mine》を開催（会場：広島市南区民文化センター・ホール）。世界的に注目を集める作家の最新作をその眼でご覧いただける、大変貴重な機会となるでしょう。



Photo by John Hodgkiss

ウィリアム・ケントリッジ

1955年 南アフリカ共和国生まれ、同国ヨハネスブルグ在住

1976年 ウィトワートルスラント大学（ヨハネスブルグ）卒業
政治学・アフリカ学で学士号取得

1981-82年 エコール・ジャック・ルコック（パリ）でパントマイムと演劇を学ぶ
テレビ番組のアート・ディレクターや舞台監督を務めた後、1980年代後半から素描をコマ撮りした手描きアニメーション・フィルムを制作・発表する。

主な展覧会

1997年 ドクメンタ10（カッセル、ドイツ）

1999年 第48回ヴェニス・ビエンナーレ

2001年 第1回横浜トリエンナーレ 2001

2002年 ドクメンタ11（カッセル、ドイツ）

2004年 「アフリカ・リミックス：多様化するアフリカの現代美術」（森美術館、東京）
「イン・ベドロー生命の美術—」（豊田市美術館、愛知）

2005年 第51回ヴェニス・ビエンナーレ

2006年 「カルティエ現代美術財団コレクション展」（東京都現代美術館）

2008年 第16回シドニー・ビエンナーレ

2009年 「ウィリアム・ケントリッジ：5つのテーマ」（巡回：サンフランシスコ近代美術館、フォートワース近代美術館、ノートン美術館（フロリダ）、ニューヨーク近代美術館、アルベルティーナ美術館（ウィーン）、イスラエル美術館（エルサレム）、アムステルダム市立美術館）

2010年 ショスタコーヴィチのオペラ「鼻」の演出、映像制作、舞台美術を担当
（ニューヨーク、メトロポリタン・オペラで3月5日初演予定）

- 【会期】 2010年3月13日(土)～5月9日(日)
- 【会場】 広島市現代美術館
- 【開館時間】 午前10時～午後5時
※ただし、お花見期間(3月26日～4月4日)と5月3日(開館記念日)
は午後7時まで開館
※入館は閉館の30分前まで
- 【休館日】 月曜日(3月22日(月・休)、5月3日(月・祝)を除く)、3月23日(火)、
5月6日(火)
- 【観覧料】 一般1,030(820)円、大学生770(610)円、小中高生510(400)円
※()内は前売りおよび30人以上の団体料金
※5月5日は小中高生無料
- 【主催】 広島市現代美術館、京都国立近代美術館、中国新聞社
- 【後援】 南アフリカ共和国大使館、広島県、広島市教育委員会、
広島エフエム放送、尾道エフエム放送

<関連イベント>

ウィリアム・ケントリッジによるレクチャー／パフォーマンス

「I am not me, the horse is not mine」



↑ステージ上のケントリッジと、プロジェクションに映る本人との掛け合いの場面

日時／2010年4月16日(金)
19:00～20:00(開場18:30)
会場／広島市南区民文化センター・ホール
〒732-0816 広島市南区比治山本町16-27
主催／広島市現代美術館
※入場無料(約500席)
※満席の場合、入場できないことがあります。ご了承ください。

自作のテキストの朗読と、ケントリッジが登場する映像と本人が共演するパフォーマンスをミックスしたステージ。ニコライ・ゴーゴリの短編戯曲『鼻』(1836)とこれを原作とするドミートリイ・ショスタコーヴィチ作曲のオペラ(1930)が題材となっています。ケントリッジの最新作《俺は俺ではない、あの馬も俺のではない》の制作過程から生まれたパフォーマンス作品で、一種の不条理劇の中に「アトリエの美術家」、「分裂した自己」という他の作品に通底するテーマと同時に、弾圧され歴史から消し去られたロシア・フォーマリズムのユートピア運動(1910-20年代末にかけてロシアで推進された文学・芸術運動)への限りない共感と哀惜が込められ、体制の暴力に押しつぶされる知識人の悲劇を象徴しています。

【その他の関連イベント】

<講演会>

本展の企画者が、展覧会の内容やウィリアム・ケントリッジについて語ります。

講師／河本信治（京都国立近代美術館学芸課長、本展企画者）

日時／3月14日（日）14:00～15:30 ※聴講無料、申込不要

<上映会 ジョルジュ・メリエス作品上映会>

ウィリアム・ケントリッジが影響を受けたフランスの映画監督、ジョルジュ・メリエスの作品を上映します。

日時／4月10日（土）14:00～、18:00～

上映作品／「月世界旅行」、ほか

会場・共催／広島市映像文化ライブラリー

TEL082-223-3525 <http://www.cf.city.hiroshima.jp/eizou>

定員／約170席

料金／500円

<キッズ・アニメーションワークショップ>

「春を探してみんなでアニメーションにしよう」>

みんなで比治山を歩いて春の風景を描き、ひとつのアニメーションにします。

講師／米正万也（アニメーション作家）

日時／4月25日（日）10:30～16:30

対象／10才以上

定員／20名

※参加無料、要事前申込

<申込み方法>

参加者の氏名および年齢、保護者の氏名、住所、電話番号を記入のうえ、下記宛先まで

Eメールまたは往復はがきでお申込みください。（4月16日（金）必着、応募者多数の場合は抽選）

〒732-0815 広島市南区比治山公園 1-1

広島市現代美術館「アニメーションワークショップ」係

Eメール：hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp

<学芸員によるギャラリートーク>

日時／3月27日（土）、5月1日（土）14:00～15:00

※要展覧会チケット、申込不要

【同時開催】 <コレクション展3「境界」> 開催中～4月11日（日）

【次回開催】 <都築響一展（仮）> 5月22日（土）～7月19日（月・祝）

<図版>



《鉦山／私のもの》(スチール)

1991年

木炭とパステルのドローイングによるアニメーション、5分50秒

作家蔵 ©the artist

実業家ソーホー・エクスタインが登場する、ドローイングを素材に制作したケントリッジ初期のアニメーション作品。鉦山採掘の厳しい労働の現実を描き出している。



《流浪のフェリックス》のためのドローイング

[フェリックスの部屋／望遠鏡を覗くナンディ]

1994年

木炭、パステル、紙

作家蔵 ©the artist

実業家ソーホー・エクスタインの分身、知識人フェリックス・タイトルバウムの孤独を描き、世界的な反響と共感を呼んだ代表作のためのドローイング。



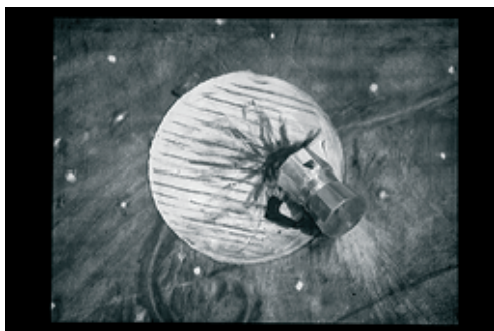
《ユビュ、真実を暴露する：第1幕第2場》

1996-97年

版画

作家蔵 ©the artist

舞台作品『ユビュと真実委員会』から派生したもので、エッチングとドローイングを重ねた独特な表現方法がなされているドローイング。アニメーションとアーカイヴ映像による同名タイトルの映像作品も作られている。



《月世界旅行》(スチール)

2003年

実写映像と木炭のドローイングによるアニメーション、7分10秒

作家蔵 ©the artist

映画創生期において様々な技術を開発したフランスの映画製作者、ジョルジュ・メリエスの同名映画の筋を追って作成された。作品内の実写映像にケントリッジ本人が登場するのが特徴的である。



《俺は俺ではない、あの馬も俺のではない》より

《同志鼻陛下》(スチール)

2008年

8つの断片映像による映像インスタレーション

京都国立近代美術館蔵 ©the artist

ロシアの作家、ニコライ・ゴーゴリの短編小説『鼻』を原作とするドミートリイ・ショスタコーヴィチ作曲の同名のオペラ制作の過程で制作された映像作品。